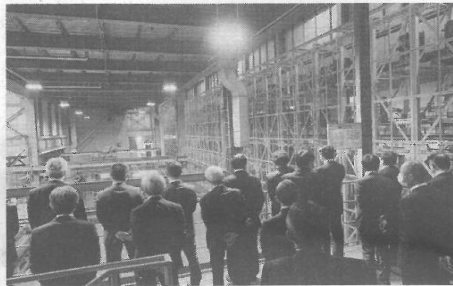


技術と技能の融合

ダクティル異形管工業会 岡本・ナベヤで研修会

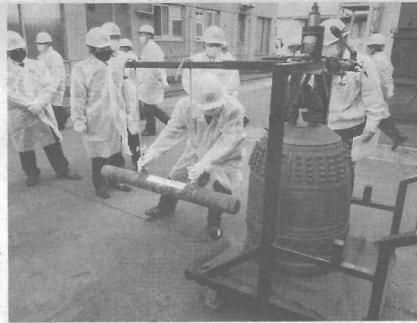
日本ダクティル異形管工業会は11月30日、研修会として岡本・ナベヤグループの工場を訪れた。会員企業である岡本の鑄造工場（岐阜市）では異形管の溶解・鑄造工程を、ナベヤの精密機械加工工場（本巣市）では工作機械用治具の製造工程をそれぞれ見学。歴史ある鑄物技術と最新鋭の工場設備・生産体制に触れた。

工場見学に先立ち、両社の代表取締役社長を兼務する岡本知彦社長が企業の概要を紹介。岡本は



ナベヤの最新設備を見学

桶狭間の戦いが起こった1560年に鑄造業を営み始め、現在では水道用異形管やマンホール蓋・グレーチング、橋梁の防護柵、ガス灯柱などを主力製品としている。創業以来、梵鐘（寺院の釣鐘）を作り続けているのも大きな特徴となる。一方のナベヤは、工作機械用の治具を中心に、除震・防振装置などを手掛ける。ものづくりのコンセプトは、テクノロジ（技術）とクラフトマンシップ（技能）を融合させた「ダクノクラフト」による多品種少量生産への対



梵鐘を試しつき

応。社員による技能検定取得の促進、3次元デジタルエンジニアリングの活用、日々の改善活動などに取り組み、「良品・確実・短納期」を目指しているとした。

岡本の鑄造工場では職人が梵鐘づくりの工程を解説。ナベヤの工場見学では、1日当たり2000〜3000もの作業工程を指示・管理する生産管理システム、AIを活用した工程設計、自動化に向けた徹底的な工数削減・工程集約などの説明があった。

